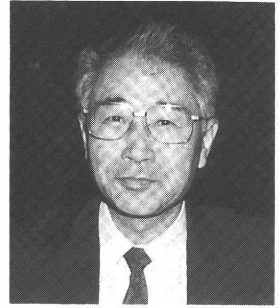


## ESSAY

## 東郷ビール

松野正紀

東北大学第一外科



「アドミラル ビール」という麦酒をご存知でしょうか。別名「東郷ビール」ともいい、輸入ビールです。これは、ヤングから中高年に至るまで、根強い人気を誇る漫画「ゴルゴ13」の主人公「デューク東郷」に由来すると想像される向きもありましょう。しかし、そうではありません。れっきとしたフィンランドからの輸入ビールなのです。しばらく前に口にする機会がありましたが、特にコクやキレがあるというわけではなく、冷やして飲めばごくふつうのビールです。このビール、実はフィンランドの「東郷平八郎提督ビール」なのです。

なぜフィンランドに東郷元帥ビールがあるのか？、これは明治時代まで遡らなければなりません。太平洋戦争以前は、わが国には海軍記念日というのがありました。日露戦争を日本の勝利（中途半端でしたが）に終わらせた最後の決戦、すなわち日本海海戦を記念した日です。東郷平八郎を司令長官とするわが国の連合艦隊がロシアのバルチック艦隊を日本海に迎え撃ち、全艦を撃沈した戦いです。旗艦から発せられた秋山真之の草案による電文「天気晴朗ナレドモ浪高シ。皇国ノ興廃、此ノ一戦ニ在リ。各員、一層奮励努力セヨ」は有名です。

当時、朝鮮半島にまで南下してきた強国ロシアに対して日本国民がその存続をかけて挑

んだ自衛戦争です。もし、この時決然と戦っていなければ、朝鮮はもとより日本も列強の植民地に組み込まれてしまったであろうといわれています。

フィンランドも当時はロシアの植民地でした。フィンランドが面しているバルト海を制圧していたのがロシアのバルチック艦隊でした。この強大な艦隊が威風堂々と長駆日本遠征に出発した時は、フィンランドの人々は、「もう帰りませんように」と祈りながらも、まさか名もない東洋の小国が勝つなど夢にも思わなかったのです。日本海海戦のニュースが届いた時、フィンランドの人々は驚喜したといえます。それを契機として独立運動が起こり、フィンランドはロシアから独立を勝ち取りました。祖国を支配する象徴であったバルチック艦隊を壊滅させ、祖国独立のきっかけをつくってくれた東洋の提督を讃えたビール、これが「東郷ビール」の由来です。

しかし、戦争というのはお金のかかるものです。富国強兵、列強に追いつき追い越せにシャカリキになっていた当時の明治政府の財政事情は厳しく、破産状態でした。そんな中でロシアとの戦いで、開戦の決断はイチかバチかだったことでしょう。いつの世にも喧嘩をする者がいれば、それを唆す者がいます。明治政府は英国に借金を申し込みました。当時、英国はロシアと敵対関係にありましたの

で、快く応じてくれました。担保は何だったのかわかりませんが、当時のお金でかなりの額だったということです。可能な借金をすべて行って戦争を遂行しました。日本海海戦は大勝利を納めましたが、戦後、多額のツケが残りました。その返済のためにしだいにアジアに進出をせざるをえなくなり、わが国は軍国主義に傾いていきました。そして、帝国陸軍、海軍の変貌とともに太平洋戦争へと突き進んでいったものと考えられます。

戦争というのはあまり歓迎されない話題ですが、サッカーの試合もまた小さな戦争です。一流のチーム同士の試合では、洗練されたスマートなゲーム内容にみえますが、実際は、カミソリで切り合うような激しい小競り合いの連続です。サッカーはれっきとした格闘技です。ボールをコントロールできる位置では、おたがいに体を張って相手を阻止することが可能で、それは正当なプレーです。サッカーは紳士のスポーツということになっていますので、非紳士的とみなされる行為はすべて反則となります。選手は反則すれすれのところでプレーをしますので、その判定はなかなかむずかしく、そこはレフェリーの腕のみせどころです。よくみると、一流のプレーヤーが反則を冒す時の多くは、反則でしか相手のプレーを止められない場合とたがいにマークし合う相手との小競り合いからくる神経戦に耐えられなくなった場合のようです。

レフェリーの判定がもともと戦争状態に陥った国もあります。南米の某国同士の国際試合で、得点の判定をめぐる、場内の小競り合いから応援団の暴動が生じ、両国の外交問題に発展し、ついに国交断絶に陥った例があり

ます。レフェリーも下手をすると暴徒にピストルで撃たれたりしますから、試合中の判定も命がけです。

このような状態で行われるサッカーの国際試合は一種の戦争です。武器を用いない点を考慮すると、さしづめ「平和な戦争」ということができます。今年行われるサッカーの世界一を決めるワールドカップ フランス大会は、まさに「平和な戦争」のリーグ戦です。だから世界中が注目するのです。

日本は、サッカー界ではまだ世界の小国です。選手の個々の体力、身体能力、個人技では世界のトップレベルからは水を開けられています。彼らに対抗するには、チームの組織力とチームワーク、そして卓越した戦略に頼るしかありません。この状態は、バルチック艦隊を日本海に迎え撃った東郷提督ひきいるわが連合艦隊に酷似しています。一サッカーファンとしては、東洋の小国「日本」が並みいる世界の列強を見事な作戦で撃ち破り、あわよくば頂点に立ってもらいたいと願っています。その時は、「東郷ビール」ならぬ「岡田ビール」でも「呂比須ビール」でも何でも造って、しこたま飲んで酔い痴れたいと思っています。

ところで、昔の海軍記念日は5月27日、すなわち日本海海戦の日に当たります。わが国ではこの日のことはすっかり忘れ去られています。しかし、フィンランドの人々はこの日には、フィンランドの日本大使館に小旗を振ってお祝いに来られるそうです。しばらくは「東郷ビール」を飲みながら、東洋の小国の来し方行く末に、想いをめぐらすことにいたしましょう。